

いふへー但嘉祥の後にもわくは流あり
くもよや玄湟一町余といふ國司居城の湟を
あへー西端とは川北川南の事にして大
川といふ今此言上川の事と見えたりは川の
南は廣野あり沼田廣野といふ又上手に廣
野新田といふありに十六七年以前といふ廣
くは言地もして極といふ本透寫なくおひ
なり言くと大木も有りーとそ廣野新田一名
極言地といふなりは謂なりは本の中は
いぼこ八目本といふものの生えり出入容易

りしたふよふ又極の義覆めて日の光も見え
るして常に入人なりりーといひいぼこ
一名山藁八幡皮武衛郡と田川山の奥
よて對峙しあひー時像は雪隠まりいぼ
くをみて士卒に當を催をもふぬよ山藁
といふと古人云傳へり箒にまゐに志をやり
よーて強し八目本といふち皮まくりーて
八目雞のまゝへは似たりぬよ八目本といふ
極といふ長きに延びてゑは在る似たり
正徳四年年沼田の所人被後屋九景終る